



いじめなくそうデー（第1回）

和歌山市では、いじめ対策の一つとして、毎月第1水曜日を「いじめなくそうデー」と定め、学校全体でいじめ解消への取り組みを進めることとしています。先日、本校の今年度第1回目となる「いじめなくそうデー」の取組を放送で行い、全校でいじめ解消に向け、考えました。その放送のお話しは、次のとおりでした。

わたし（校長）は、毎週水曜日にピンク色のシャツを着ています。今日も着ています。そのことに気づいていたという人もいないのでしょうか。月曜、火曜を頑張って、少し疲れてきそうな週の真ん中水曜日にちょっと気分を高め、木曜、金曜も頑張ろうという思いで、勝手に水曜日を「ピンクデー」と呼び、ピンク色のシャツを着ています。最近では、その思いに賛同してくれる先生方がピンク色のシャツを着たり、ピンク色のものを身につけてくれたりして、水曜日になると職員室がほんのり華やかな感じがしています。

今回は、この「ピンクデー」とは別の「ピンク色のシャツ」にまつわる物語を、みなさんに紹介します。

2007年、カナダのある学校での出来事です。日本の中学生と同じ年頃の一人の男子生徒が、ある日、ピンク色のシャツを着て登校しました。カナダのその学校には制服がありません。その男子生徒は、ピンク色のシャツをきっかけにからかわれ、そのからかいがエスカレートし、暴行を受けるということが起こりました。耐えられなくなった男子生徒は、家に帰ってしまいました。その出来事を聞いた、男子生徒の先輩二人が、「自分たちの学校にいじめがあるなんてうんざりだ」「何かアクションを起こそう」と考え、その日の放課後、75枚のピンク色のシャツを買い込み、クラスメートらに「明日、一緒に学校でピンク色のシャツを着よう」と呼びかけました。翌朝、二人は、ピンク色のシャツを持って登校し、校門で配ろうとしたのですが……。二人の目に映ったのは、ピンク色のシャツを着た生徒が次々と登校してくる光景でした。配るまでもなく、ピンク色のシャツを着て登校してくれたのです。ピンク色のシャツが用意できなかった生徒は、ピンク色の小物を身につけたりして、その数は、二人が呼び掛けたよりもはるかに多い数百人に

も上りました。その日、学校は、ピンク色に染まり、その様子を知ったいじめられた生徒は安心したそうです。その日から、その学校でいじめを聞くことはないと言います。いじめに対し、生徒たちは、言葉や力づくではなく、行動で意思表示をしようと立ち上がり、その思いは実を結んだのです。現在、この行動はカナダの国全体に広まっています。カナダでは、毎年2月最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、学校だけでなく、企業・個人を含め、賛同する人々がその日はピンク色のシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っているそうです。

今後、ピンク色のシャツを着ているわたしを見かけたとき、東和中学校のみなさんの心の中にある「いじめを許さない気持ち」がふわっと浮かんでくれたら、とてもうれしいです。

火災避難訓練をしました

6月26日、校内での火災を想定した避難訓練を実施しました。3密回避に配慮し、まだ校舎に慣れていない1年生の避難行動を重視して行いました。災害時に、慌てず、落ち着いた行動をして被害を最小限に抑えるには、日頃、正しい心構えを知り、身につけておくことが大切です。その意味において、全校が、とても静かに落ち着いて行動した今回の訓練は、とても意義深いものとなりました。今後は、津波を想定した避難訓練も予定しています。



陸上競技部 川端美珠生さんに 県中学記録章が贈られました!!

川端美珠生さんは、昨年度、中学女子100mハードルにおいて、それまでの和歌山県中学記録14秒61を上回る14秒50を記録し、県中学記録を更新しました。その功績に対し、和歌山陸上競技協会から県中学記録章が贈られました。100mの間に高さ76.2cmのハードルを10台越えて走り抜ける種目です。3年生となり、大会の中止が続いていますが、仲間とともに走れる喜びを感じながら、ますます自分を磨いてくれることを願います。

東和便りは、東和中学校ホームページにも掲載しています。